

報道関係各位

記者懇談会のご案内

「末期がんの完全治癒を目指して -次世代のがん治療-」

～ 副作用を劇的に軽減し、患者のQOL向上に大きく寄与する次世代の治療法 ～

謹啓 残暑の候、報道関係の皆様方におかれましてはますますご活躍のこととお慶び申し上げます。また平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび東京理科大学科学技術交流センター(承認 TLO)では、9月28日(木)午後2時、『末期がんの完全治癒を目指して～次世代のがん治療～』と題し、記者懇談会を開催する運びとなりました。応用生物科学の分野から「がん治療」の研究に取り組んでいる坂口謙吾教授(東京理科大学 理工学部応用生物科学科/ゲノム創薬研究センター)を講師に、日本人の最大の死因であり、いまだ根本的な治療法がない「がん」に関する最先端の研究および次世代の治療についてご紹介します。

日本では毎年60～70万人が悪性新物質(がん)を発症しており、そのうち20～25万人は手術が不可能で、治癒が望めない「末期がん」です。こうした末期がん患者に対しては、これまで抗がん剤を使用する化学療法と放射線の電離作用を用いる放射線療法が施されてきましたが、いずれも深刻な副作用を伴う対処療法でした。

こうした中、坂口教授を中心とする研究チームは、世界で初めて、全く副作用を伴わずにがん細胞に集積し、がん細胞の増殖を顕著に抑制する抗がん物質(抗腫瘍活性物質)を発見、さらにこの物質が、放射線の効果を劇的に増大する抗腫瘍増感効果があることも確認しました。現在、札幌医科大学、東京医科歯科大学等と共に実用化へ向けた共同研究開発を進めていますが、将来的に副作用を劇的に軽減し、患者の QOL 向上に大きく寄与する画期的な治療法の確立、末期がんの完全治癒の実現が期待されます。このたびの記者懇談会では、本研究内容、プロジェクトチームの取り組みを中心に、「がん治療」の最前線について皆様にご紹介させていただく予定です。

(本研究は、平成17年科学技術振興調整費「新規な放射線治療増感剤 SQGA の研究」によっても支えられています。)

つきましてはご多忙の中、誠に恐縮に存じますが、何卒ご来臨下さいますよう宜しくお願い申し上げます。

謹白

2006年9月14日
東京理科大学科学技術交流センター(承認 TLO)
センター長 瀬尾 巖

東京理科大学科学技術交流センター(承認TLO)主催 記者懇談会

「末期がんの完全治癒を目指して -次世代のがん治療-」

開催日時： 2006年9月28日(木) 14:00~15:00

出席予定者： 坂口 謙吾 (東京理科大学 理工学部 応用生物学科 教授)

URL: <http://www.rs.noda.sut.ac.jp/~kengo/indexj.html>

開催場所： 東京理科大学 森戸記念館 2階 第3会議室

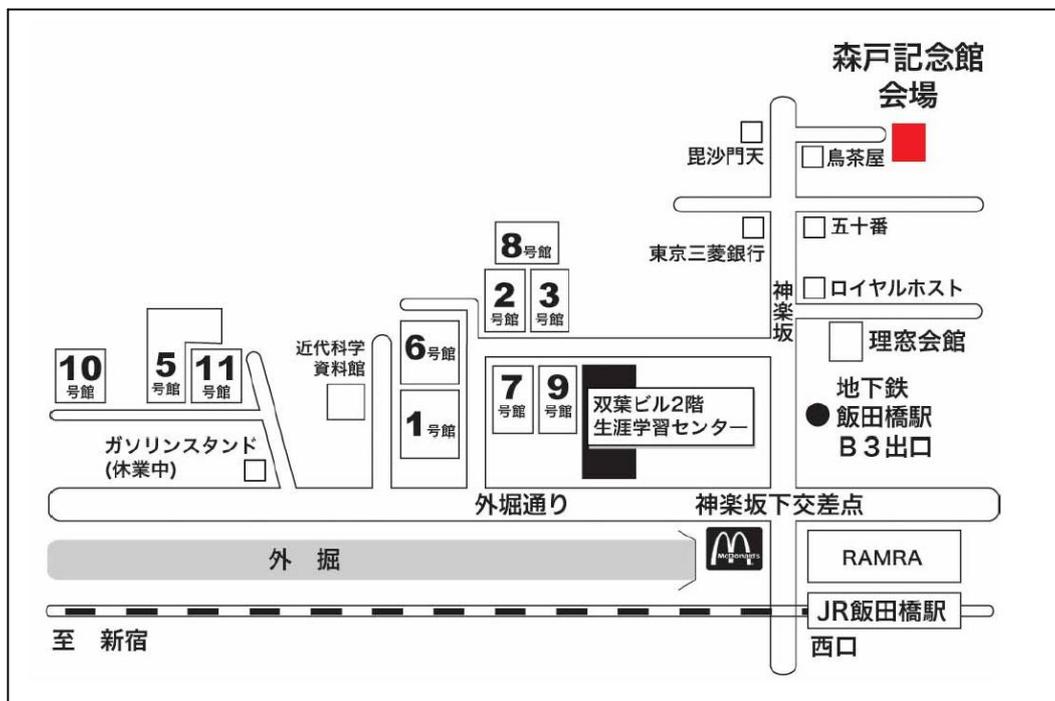
住所: 〒162-8601 東京都新宿区神楽坂 4-2-2

【交通手段】

JR 中央線、飯田橋駅下車 徒歩 10分

地下鉄 有楽町線・南北線／飯田橋駅下車 B3出口より徒歩7分

【周辺案内図】



本件に関するお問い合わせ

◇東京理科大学科学技術交流センター(承認 TLO) 【略称:RIDAI SCITEC】◇

総合企画部研究支援課 担当者：近藤 規久

TEL : 03-5225-1089

e-mail : tlo@admin.tus.ac.jp / URL: <http://www.tlo.tus.ac.jp/>

【 参 考 資 料 】

□ 坂口 謙吾 (さかぐち けんご)

略 歴 : 昭和42年北大理学部生物学科卒。昭和47年理学博士。以後、渡米、カリフォルニア大学、ゲルフ大学、そして再びカリフォルニア大学を経て、平成2年東京理科大学理工学部に着任。現在、理工学部応用生物科学科教授。ゲノム創薬研究センター教授、およびフロンティア計算科学研究センター教授を兼任。

研究分野: 1. 減数分裂系に特異的な酵素群の研究
2. DNA 修復関連の DNA ポリメラーゼの研究
3. DNA ポリメラーゼ選択阻害剤の研究

□ 本件に関する研究プロジェクト グループ

- 東京理科大学 坂口グループ(東京理科大学 理工学部・応用生物科学科/ゲノム創薬研究センター)
統括リーダー、バイオ担当、分子生物学担当
- 東京理科大学 菅原グループ(東京理科大学 理工学部・応用生物科学科/ゲノム創薬研究センター)
有機合成化学担当
- 札幌医科大学 佐藤グループ(病理学、外科他)
免疫抑制剤、制癌剤の単剤効果担当
- 東京医科歯科大学 三浦グループ(ガン治療、放射線科)
制癌剤、放射線複合の増感効果担当
- 東京理科大学 小林グループ(東京理科大学 薬学部/ゲノム創薬研究センター)
有機合成化学担当
- 東京理科大学 阿部グループ(東京理科大学 理工学部・工業化学科/物理化学科)
リポソーム、物理化学担当
- 筑波大学付属病院 武田グループ(ガン治療、核医学部門)
制癌剤分布、同位元素内照射、造影現象解析効果担当
- 物質・材料研究機構・材料研究所 桜井グループ(高輝度光解析部門)
放射線照射装置の基礎物理、造影分布担当
- 理化学研究所および高エネルギー研究機構 清水広田グループ(機械工学、ロボット設計)
画像解析・放射線照射装置の PET 型ロックオン自動官制照射装置の設計担当

東京理科大学 創立 125 周年 ~ 2006 年 6 月 14 日、東京理科大学は創立 125 周年を迎えました ~

東京理科大学は、創立 125 周年を迎えるにあたり「人間と自然のための科学技術の創造」を教育理念に掲げ、「世界を先導する科学技術の情熱拠点」を目指しています。神楽坂および野田キャンパスの再構築を含む 125 周年記念事業の推進により、神楽坂校舎は社会への情報発信基地としての都心型キャンパスの構築を、野田キャンパスは産官と連携したハイレベルな教育・研究拠点としてのリサーチパーク型キャンパスの構築を目指します。また長万部・久喜キャンパス、山口東京理科大学・諏訪東京理科大学では地域との連携を深めながら相互連携を図ってまいります。

Conscience
21世紀の「科学」は「良心」へ向かう
125th Anniversary 1881-2006

◇ 東京理科大学 125 周年コンセプト “21 世紀の「科学」は「良心」へ向かう” ◇

【Conscience】カンシャンス : 英語・仏語ともに「良心」を意味します。

Conscience の語の中に「科学」を意味する『-science』が含まれており、21 世紀の科学技術にふさわしいコンセプトと考えました。